

# 志度音楽ホール



## 名誉館長

Jean-Pierre Rampal

ジャン＝ピエール・ランバル

(フルート奏者)



I am happy to accept to become honorary directorship and will certainly be happy to have a recital everytime I come to Japan as far as this is possible during my stay.

Thanks in advance and very best regards.

名誉館長の職に就くことに喜んでおります。  
私は、来日したときはいつでも滞在中可能な限り、必ず喜んでリサイタルを開きます。  
申し出に感謝いたします。そして、くれぐれもよろしくお願いします。

## 略歴

1922年1月南フランスのマルセイユで生誕。

フルートは13才から父の手ほどきを受けた。しかし音楽家になる意志がなく医科大学へ進んだ。1943年在学中に軍隊へ召集されたが、特別の許可を得て、ドイツ軍占領下のパリ音楽院に入学生、はじめて本格的にフルートを専攻した。

生まれつきの音楽的天分に加え、父の教育が効を奏して、パリ音楽院を僅か5ヶ月で卒業した。

彼のフルート専門家としての拠出しはウィーン国立歌劇管管弦楽団の首席奏者で51年まで在籍。

この間に欧米、アフリカの各地から独奏者として迎えられ、リサイタルや協奏曲で国際的名声を高めた。

1956年パリ国立オペラ座首席奏者に就任し、かたわら室内家でも精力的な活動を行うようになった。

同歌劇団退職後は、世界のフルート界に君臨し、一時パリ音楽院首席教授として後進の指導にもあたっていたが、現在はそれも辞して、独奏者として全世界を舞台に活躍している。

自然景観の恵まれた天野峠付近を、文理大学誘致に伴い志度町の文教ゾーンとして位置づけ、総合運動公園を含む公共施設の整備を集中的に行う総合会館群整備事業の実現を図っています。

その中に、ベージュ色の一際目立つ施設、そして文化・芸術活動の新たな拠点として、町民こそって期待した志度音楽ホール（志度共同福祉施設）があります。事業費9億5千万円、雇用促進事業団と町が建設し、昭和62年3月に完成したものです。このホールは、中規模のホールで西日本屈指といわれており、財団法人NHKエンジニアリングサービスの技術援助を受け「音楽専用ホール」として最高の音響特性が買われており、[入立から55万平方メートルの空間](#)を確保していること。

またホール客席後部には母子室と残響可変装置を設置していることが特徴です。この残響可変装置は、吸音板の出し入れにより残響時間を1.3秒から2.2秒までコントロールさせることが可能で、セミオーケストラから室内楽等あらゆる音楽ジャンルに適した響きを醸しだせるよう配慮しています。

このことを加害に物語っているのが、「フルートの帝王」としてフランス人ジャン・ピエール・ランバル氏が名誉館長に就任することとなったことでしょう。昭和62年10月の来日演奏の場で、彼の生涯を通じて最高の演奏が志度ホールでできたことによりたいへん感激され、友人に環境、雰囲気、そして響きが良かったという話を漏らしたのが縁となり、名誉館長という町の意向を快く了承したエピソードがあります。そのほか、舞台の天井、壁を動かすことで演劇や講演会等にも利用が可能です。

また、隣には福祉の中心施設である社会福祉センター、その横には農業従事者の健康維持に貢献するための構造改善センター、町民の情報交換の場としてのコミュニティセンターがあります。そして、その下には、町民の憩いの場、スポーツとレジャーの場としての総合運動公園があり、町民の期待の施設群もほぼ全容を見えています。これらは、すでに地域の文化、スポーツの活性化に貢献しており、今後更に住民に愛される施設群として一層の充実が期待されています。



▲母子室



▲舞台より客席を臨む



▲スタインウェイ D274型グランドピアノ



客席側面▶



▲上空より志度音楽ホール・社会福祉センター・構造改善センター・駐車場・コミュニティセンター・総合運動場を臨む



▲舞台全景



▲研修室（リハーサル室）



▲1階ロビー



▲二階ホワイエ



▲残響可変装置（残響時間を1.3秒～2.2秒に変えることができます。）



▲音響調整室

▲調光室

▲映写室



▲控室

